

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
<b>合計</b>	<b><u>30</u></b>

事業所番号	2370301315
法人名	北医療生活協同組合
事業所名	生協あじまの家グループホーム
訪問調査日	平成 19 年 7 月 31 日
評価確定日	平成 19 年 10 月 4 日
評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』

**○項目番号について**  
 外部評価は30項目です。  
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。  
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。  
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

**○記入方法**  
 [取り組みの事実]  
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。  
 [取り組みを期待したい項目]  
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。  
 [取り組みを期待したい内容]  
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

**○用語の説明**  
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
 家族 = 家族に限定しています。  
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。  
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。  
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## 1. 評価結果概要表

作成日 平成19年10月4日

## 【評価実施概要】

事業所番号	2370301315
法人名	北医療生活協同組合
事業所名	生協あじまの家グループホーム
所在地	名古屋市北区中味鏡三丁目807番地 (電話) 052-909-4188

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	名古屋市中村区松原一丁目24番地 N203号室		
訪問調査日	平成19年7月31日	評価確定日	平成19年10月4日

## 【情報提供票より】( 年 月 日事業所記入)

## (1)組織概要

開設年月日	平成 16年 9月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	22 人	常勤	4 人, 非常勤 18 人, 常勤換算 2 人

## (2)建物概要

建物構造	重量鉄骨 造り
	3 階建ての 2 階 ~ 3 階部分

## (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	54,000 円	その他の経費(月額)	27,000 円	
敷 金	有( 円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 108000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	400 円
	夕食	500 円	おやつ	0 円
	または1日当たり 円			

## (4)利用者の概要( 月 日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	4 名	要介護2	4 名		
要介護3	4 名	要介護4	3 名		
要介護5	3 名	要支援2			
年齢	平均 83.5 歳	最低	65 歳	最高	95 歳

## (5)協力医療機関

協力医療機関名	北医療生協あじま診療所(医科、歯科)
---------	--------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

北区あじま商店街沿いの閑静な環境に立地するホームである。当ホームは、北医療生活協同組合の関連事業所であり、医療面でのサポート体制もできている。当ホームの名称“あじまのいえ”の頭文字を取った理念“あんきに暮らすふるさとのよう まごころあふれる優しいひとみ のんびりゆったりいつだって笑顔がひかる私のおうち”を目指して職員は日々努力している。家族との交流を目的とした家族会学習会を定期的に開催しており、家族が必要とするテーマに沿った学習と家族同士の交流の場となっている。また、運営推進会議や地域の学習会への講師派遣など、地域の方々との交流についても力を入れており、今後も取り組みが期待される。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価では、介護計画の共通化、地域広報活動が主な改善課題であった。今回の評価で、介護計画は職員間のカンファレンスにて随時意見やアイデアを反映させていた。ボランティア、保育園児の訪問等で積極的に関わりを持つようになった。いずれの項目でも着実に改善されている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価の意義を全員に説明し理解を得たうえで取り組んでいる。職員は全員の意見が反映されるよう複数回のミーティングでまとめ、課題についても改善に向かって話し合いをしている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	職員、ボランティアの募集について、当ホームの大変さを知ってもらい会議出席者からの情報の提供に繋がった。当ホームを地域に知ってもらうためのニュース発行を予定している。
重点項目④	家族の意見、苦情等の窓口は管理者に一本化され責任の所在がはっきりしている、また「虹の箱」と呼ばれる意見箱も設置されている。年3回実施される家族学習会が機能しており、そこで出された要望、苦情等は運営推進会議、職員会議で取り上げ、運営に反映させるよう努力している。
	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に加入しており、夏祭り等の行事には入居者と共に参加している。地域のボランティアの受け入れ、保育園児の訪問等、交流が徐々に進んでいる。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念の作成にあたり全職員、生協組合員等からも応募があり全職員で検討し、事業所独自のわかり易い理念を作っている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を業務日誌、カンファレンスの判断基準にもあてはめ確認し合うようにしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の一員として町内会に加入しており、夏祭り等の行事には利用者と共に参加している。ボランティアの方が清掃や食事、算数教室の講師として定期的訪問があり、また保育園児が遊びに来る等地域との交流が図られている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価はパート職員を含め全員で取り組み質の向上に繋げている。評価の意義は全職員に理解されており評価結果は内容も周知し改善に役立っている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は2か月に一回開催され次回予定日も決め積極的に取り組んでいる。会議は地域で暮らしている組合員が中心になって運営されている。議題は入居者の状況、行事、外部評価結果と改善の取り組み等である。職員、ボランティア等の募集も協力依頼している。	○	町内会長、民生委員等地域の代表者とも、引き続き働きかけることを望む。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村に連絡をし協力を求めているが、現状では、連携は行われていない。	○	現状では名古屋市の担当者は会議等の出席が難しいこともあり、今後の行政側との取り組みに期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月、利用者毎、発刊の「すずらん」「健康便り」で生活の様子、健康状態、行事等写真を交えて知らしている。訪問した家族にも写真等で日常の活動記録が分かるようにしている。金銭管理は毎月金銭出納、領収証を添えて報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の訪問時には職員は必ず声を掛け話を聞くようにしている。年3回開催の家族学習会で交流を図っており、そこで出された意見、苦情等は職員会議の議題にしている。ホーム入口に意見箱「虹の箱」が常設され、開封は第三者が行い中立性を保つよう配慮している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者に影響が生じないようユニット毎に職員を固定している。各階に職員の写真、氏名を掲示し、馴染みの関係ができるようにしている。職員の交代する時はできる限り生活環境を変えないように引継ぎの時間を十分取るようにしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営法人独自に行っている新人職員教育(1年目、2年目)があり教育体制が整っている。外部研修は参加希望者を募る等積極的に受講させ、研修内容等は会議で報告し全職員に情報を共有できるよう取り組んでいる。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	名古屋市認知症高齢者グループホーム連絡協議会の会員であり協議会の研修等に参加している。また、労働組合関連の介護事業者との交流がなされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気などに徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ホームを家族、本人に見学してもらい職員と顔馴染みになりながら共同生活をする準備をしている。入居後も家族に協力してもらおうと共に職員間で情報の共有、申し送り等細かく把握して早期に馴染めるよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者は人生の先輩であるという考えを職員が共有しており、普段より料理、畑仕事、体操等生活の知恵を教えてもらう場面がある。また生活歴を把握し得意分野に力を発揮してもらうような場面を工夫している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は勤務開始時には、一人ひとりに声を掛けて、挨拶しながら、利用者の表情や体調の把握に努めている。利用者が希望を言える環境、機会を作っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画に家族の思いや意見を入れて立案、実施している。職員間の意見やアイデアを「なんでもノート」に記入してカンファレンス時に検討し、介護計画に反映させている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状態の変化などに応じて、随時職員間でのカンファレンスを実施。内容は家族に報告し、意見を聞いている。	○	記録がカンファレンスの段階で止まっており、文章が介護計画として明記されていないことがある。計画変更(見直し)の際に、記録から評価を十分にし、変更の目的を把握して計画の作成することを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	当ホームは、医療連携加算をとっていることにより、医療面での支援を行っている。具体的に、医師による往診、訪問看護ステーションとの連携等である。また、ホーム一階にある通所介護との交流も行われている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には、本人、家族が希望するかかりつけ医で、家族同伴の受診になっている。同伴できない時は、本人・家族の希望に応じて職員が同伴している、また、医師の往診も受けられる。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現状では取り組みの途中であるが、重度化したら、どうするか家族からアンケートをとり、希望を聞いている。終末期の基準をつくる取り組みの途中である。	○	医療行為が入ると職員体制も問題になるが入居者、家族の希望がかなえられるような取り組みに期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーの配慮について全職員へ説明し教育がなされている。個人情報に関する介護記録等の書類は関係者以外の目に触れないように保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常的に決まりや都合を優先させた支援にならないよう職員教育がされている。一人ひとりのリズムやペースに配慮しながら希望に応じた柔軟な対応に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や後片付けは、一人ひとりが出来ることを行い、職員も同じテーブルと一緒に楽しく会話をしながら食事をしている。介助が必要な利用者にはさりげなく隣に座りフォローしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は毎日行っており、時間、介助者などは、本人の希望に合わせている。入浴拒否される方については、職員間で連携し、清潔が保てるよう入浴を促している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	体操のリーダー、食器拭き、箸配り、アイロンがけ、洗濯物たたみ等、役割を持って生活を送っている。充実感をもてるようにねぎらいの声かけ等さりげなくフォローしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	本人の希望や体調に合わせて外出が出来るように配慮し、必要に応じて職員が付き添っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	入り口が自動ドアになっているが、安全のため手動操作にしており外出可能な入居者にはドアの開け方を教えている。外出を希望する方には職員が付き添いの支援を行っている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	当ホームは、各ユニットの入口が階段になっている事もあり、職員の間で災害時の避難に関する意識づけがなされている。現状では、避難路は確保されているが、入居者の訓練は行われていない。	○	利用者と一緒の避難訓練の実施が望ましい。緊急時に対応出来るよう地域の組合員との連携も期待したい。災害に備えた備品等の準備に期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事量やメニューは、メニュー委員会で検討している。食事量、水分摂取量の把握は個別のチェック表で確認している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の場所には月毎に壁面の飾りを変えたりして季節感を取り入れている、また、行事等の写真コーナーも喜ばれている。テーブル、ソファの配置についても入居者の事情に配慮して工夫されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には本人、家族との話し合いにより自宅で使い慣れた家具類が持ち込まれていた。夫の写真や長年愛用された思い出のあるもの等に囲まれ、居心地のよい空間になるように配慮されている。		